



特別  
~ 12  
1077  
41





利  
1077  
4041



御法

五十一歲

薰心業

紫上病恹不食護請出家賜給事

三月十餘日紫上供養皇子部法華經事

於二條院有年

紫上送消息上明石湯方事 白文乃由使

法會年各還六條院活月

夏二條院病恹明石中文行啓事

後二條院東村給事

案上与白文洲相语事

源氏若中文未相语事

八月十四日明方案上卒事

六条院作大相若上落山事

大将身入空板事

案上葬送事

六条院出治事

致仕大臣訪六条院治事

林好中官访六条院治事

御法

卷名双号

何 多しぬらぬ法かうそをすぬく

世しゆと法よ申れちさうりを

源氏の中一歳のまうり林にて年を

保上げ林うせ法あり

保乃ういひしうらうひ法一ぬらぬの後

一とせうらうひまの事よの事よと表ん

えうらうまの事ようらうひまを

おとらういひうらうらと

まうあうらうたらぬよあういひに

あやいあや大事れうらひのいひに

院のおもらういひまを

源のまういひ法にうらまを

まういひまをうらぬいひうらぬ事よは

松 源の清心

うろく乃心心らよん

松 葉上心申し事

うろく乃心心らよん

美 葉上心申し事

乃心心らよん

松 葉上心申し事

乃心心らよん

美 葉上心申し事

かゝありさ海よ

松 葉上心申し事

乃心心らよん

松 葉上心申し事

乃心心らよん

乃心心らよん

河 各留半片京華葉待我侖存同

法延律師 丑舎覆 美

乃心心らよん

世政をくばりて世よしたるにありけり  
たかき山ありてはね成るをこてて

く降りよありてはせこありてはあり後  
を乃一薄をいめりてくさふん

いと心くくか

<sup>秘</sup> 葉上の心くくさ

多うらあきくう

<sup>ほ</sup> あきくうらハ古人云あされを  
今葉あきくうハ例の例とて因り

六条院通世れ事成明石上いさか  
さみく祠にさふりふあきくう事ハ  
かろくく一取りとかささきさ  
と有延事ハ院さ海てさる人  
さしてあきくうはされと日  
わきくうハれあきくうハ祠  
かろくく一たさハささきく  
家よあきくうハささきく  
河海ハあきくうハささきく

弄 後、いさ又字清也

秘 花鳥のよあさ、けりとも云河上は海海

浅川しそり河海の流ぬくも

美 河流の浅き流ぬくも花流のあさけりとも

まももあさくぬくも抄云河流つ花

美 曰流すわさくくしてと又雪ま

の事をもとりあさくくく流川のあさ

とえの字不おもさる題こり見

又幻巻、あさくくくくくくくくくく

御 けりあきてかひも

美 源ノゆききりていさ女は女命を

じふぬ物と三遊の理也

しり花鳥をもほくくくくくくくくくく

秘 花子あさくぬくも花鳥のあさくぬくも

りしりあさくぬくもたよまもぬく

身なれりしりあさくぬくもあさくぬく

しりあさくぬくもあさくぬくもあさくぬく

しりあさくぬくもあさくぬくもあさくぬく

弄 回



美  
げ出家をゆりし後をある事せば其の  
罪清少の如くはよく妨あるが如  
松栞身より美なる美河物なり  
かきさきり子部

美  
其の逆所之十部の人よかきし  
一七  
あり

秘  
源の心てもきり後いふなり  
とく一死さぬよし

日暮文らいゆい乃文くら

秘  
后くらし何りの一人は扶好一人の如  
御あり

明石女御立后の事ありてり  
みり

并  
后くらしありは明石女御中  
まの如くは明石女御の如くは  
扶好し明石中まの如くは  
始り



仏のおしする所のさぬ遠くす

美 穢土草菴密嚴佛國を修ん

又ハ志不遠此されハ極楽ノ莊嚴を享

得り美るるなり

とかなりゆとる人々

秘 大いこの乃法縁する人々功徳あり也

たさいふよりさんみんの勢も

美 八海あり十刹也み夫のりよんは

てけ新の行道あり行基菩薩の

とを明りして行るあり

法教をとりえり事ハ勸り事

にそのありみはててえり

提婆宗は採新の菓蘇隨時恭敬

さんぶと云ハ讃歎の一ありのちを

讃歎方別と云ハ法則よひ何んを

私は分別事かハ仍法事畏之

うとくはとひるひん

美 同人同の新人群集乃我故云其なり

まろりて讃歎乃登も持持をの

らりせ

秘

らちやまみハ法中のみはくんしはる  
かたをよて羊れあめしとくまうとて

まゝして

秘

白多し 弁

秘

たーらぬこのこあももらなりやして

ふいふいけをいあしこのあし

秘

こあしハ持菓汲水のほし身と菓

しせたりものけねハ早トメあつを

只今打しねくしあみりうと也

弁

このこ菓よとせらり

秘

け乃よ持菓汲水のゆりたあり

弁ちるよらりわりの方後あよ入急屋集

如薪るて火減佛化のあつてはは

ののあつと

美新らるあよあつてあつてあつ

あよのあつは薪ハ子威給はあつ



千尋の糸もふしあはせふらにけりぬれ  
け報の撃手報宣を 提婆受乃公とて綿  
竹ととりとみくもろえはつては御  
の法花経とてれはけ付能をわ  
ふとてりよと

鹿のちりもてんてん

弁 山探 雲ありまよるとかのうもと  
人としてあしりきれ 弁は日傘を  
れよよ心と向りぬく

秘 ばと平しを去れは然とありふく

弁 業上ノ心はよとてしよと海の一  
美 れノ字カあり

百子ろのけしけり

美 樂の幸るるくー 門を

何 百子ろさしつる去ハ抱とあり  
ぬまれも我を少あり

まきわしれまひてきりよなりか

何 凌王 一名羅薩王 右王長曲 意序八拍子各  
一合拍子八拍十六拍 柘加拍子舞八時吹



<sup>秘</sup> 此の年中あり

やうにふくみおのたりとて

は原路はあとの心の中へゆるぎなき道

まゝて交りよはせり

<sup>秘</sup> 此院にていひくくくく名上は

里の成りあり

<sup>瓦</sup> 此の里の石上ノ中成りあり

<sup>は</sup> 女まゝのあり

中

<sup>美</sup> 御八海を

儀にいふれりて

<sup>美</sup> 乞う限りあり

<sup>出</sup> 今もあつていふあり

いふにせし中の契を

<sup>秘</sup> 清法は力をうけり

としはりまゝ今中の契は

をわきハ我力世成りあり

の後いふに





あはれいさしあはれいさし  
あまのこいしひのたむけの  
うまの我身の中と涙を  
や

けはれてあはれいさし

美 不の流涙 憾法

あはれい

美 本と本とつてあはれい

あはれい

あはれい

あはれい

美 けはれてあはれい

あはれい

あはれい

あはれい

あはれい  
あはれい  
あはれい

秘

明石中交の 美豆后の幸けおと后

とらとあり

美

ゆ名中交ハ比上ノ巻子なる所也

東の村よありしより今もれハありてハ

いよりありしころ也

美

二条院の東村と申交ハ休所也

寝交よありしころ也今もれハ中園階

ろしありしころ也寝交ハ比上ノ

より美

并

二条院の東にありし中交ハ休所也

比上ノ寝交よありしころ也比上ハ西村と

申交ハ比上ノ西村と申交ハ比上ノ西村と

秘

比上ノありしころ也今もれハ東にあり

中交のありしころ也今もれハ東村と申

交ハ比上ノ説こありしころ也今もれハ

比上ノ説こありしころ也今もれハ

比上ノ説こありしころ也



秘

源氏中々の西あしきりしてて入る  
方しきり給し并

あしき中々の西あしきりしてて入る  
西方は源氏の屋と人のみ成とて  
あしきりしてて

たふいの西あしきり

あしき中々の西あしきりしてて入る  
あしきりしててあしきりしてて  
あしきりしてて

秘

中々の西あしきりしてて入る  
あしきりしてて

あしき中々の西あしきりしてて入る  
あしきりしてて

あしきりしてて

秘

あしき中々の西あしきりしてて入る  
あしきりしてて  
あしきりしてて  
あしきりしてて



<sup>秘</sup> 中文乃西心中之何とてくまてよく  
く何とてくまてよく

於しきよるまは

<sup>秘</sup> ありまてくまてくまてくまて

<sup>并</sup> 於しきよるまはくまてくまて

業事れけむての事よ何とてくまて

よの事と中文ありくまてくまて

ありまてくまてくまてくまて

是を長傳ノ事とてくまてくまて

きやありの心して道途流ハ并流と

くまてくまて後相中流穀國わし

人之傳ありくまてくまて

<sup>秘</sup> 中文、孝御讀傳

まののりありくまて

<sup>秘</sup> ありまてくまてくまてくまて

讀傳ノ事とてくまてくまて

<sup>秘</sup> 中文、孝御讀傳之事ハ并流

としてけりて我方よりありくまて

我を統つ我中文ノゆりま之ニ重虎  
在村一のよし 三又自筆

筆

我多东村之中文ノ体息市ノたり  
あふく 三又自筆

我因季此清須ハ重虎トて其  
私に来ノ祠ト文ハ事ありまひん  
み成

中文の又此上ノ方ノより注つる

むあ〜成りし時〜まひせり

〜我ハけ御清須乃所ニ重虎  
ゆるり多るる〜其の成り  
し子トてもせりるる 担い来ノ文ハ  
事あり

ことり〜 此里乃重虎  
ト云上候事

三文ハあ〜乃中

秘 白昔ノ多〜重虎

筆 意路出上候〜まひ〜

中りゆ〜し



坐臥のしるのまじ

まろはらぬくくりにとまふり

句文の四句 秘 句のうへ今と

秘 文下りし中まくくをいそひま

義法テヨム  
中同

たふまありぬひさハさんをみま

秘 坐上句

句文後ニ二条院ニ住り

らふアツむ行りハ仏中もそふり

秘

坐上我力もハの活ぬぬ妙之西

佛よハ橋れ花もそふり

と人そふり

とふりもいんあり

若人散乱心乃至一華 法華經 供養放畫像

漸見化數佛

法華經

曾冰種處思元亮 鳥是花時供世尊

大乃まといひ人

美 けまハ句

秘 いめまハ女一

并

机をよきれはらとて命

<sup>秘</sup>うららありまきこ

こよれの林内をひきこきこめ

さうはあやうじらりりり

何 林やうららなりあはれはかり

—じらりり人のきこきこ 秘

秘 美因りく

中交ハまのりほりんととては

美内裏ハまのりほりんとと

<sup>美</sup> 神里の六重庵の西の

こよら—西んせよも

<sup>美</sup> 中交ノ母もろくハ有る

わしよとてあやうじらりり

さう—こらりりりりりりり

内乃内はひの

内裏よりあやうじらりり

あやうじらりりりりりり

<sup>秘</sup> 中交の西の—

うもみだす

文れとより活けり

秘 笠上ノ清くくもより活

美 六重院ノ中交ハ西里住也は上ノ所

西わりのこもも病中けりハはりハニ重院

ハ又中交の行路ありて交をれり

ろつろしつるは美ニ重院ハ中交

又ハ申ありて也

かこくくいこけきと

美

笠上ノ根籍自由ノ所をれもあ

中交とよ入りて

こよありやとをれり

秘

は上ノ所ハ美

きくくわすありにちひおわいあ

美

あきくくおわいあありあひのた

らりくくあり

あきくくわいあありあ

あれ世のたれあり

異 傍よ二あまてんから

風とくく吹いてる

美 申文しゆお流し

このゆきくよして

秘 申文のゆきくし 源の河

あふも申文しゆお流して流るる

あつれおひを

久流もをくく

秘 空しゆく

片のよいよあきし

美 妙なるるる

とくく家行をくく

月よあつれおひのくく

美 くとみくハ勢のゆきく

秘 くらみれかよあめを

しもあありなまのゆきく

わらふくく

きふくく

美 枝のよき紙の海をなすはうかきあり  
并庭おやりうの風をみまはるは海

流んるるる

我々

美 現量のお我の海にたれまよふと

ひん

ふそくられらありさく

秘

くつろろろろのつとろろろ

奇ふふそくられらろく現量の杖

の夢もこころはありねとるるる

原

原 へもちははささ成あつそよ家乃せま

とくれえれりやとくももね

河

未の夢りもの平やせせれとくれ

えれりりあつらるるる

和泉

原とせは消そしめくは

あつみさうしかりうや乃夢

美

川あ原とせそ

秘

源乃あやばとよとくれろろろ

きし成あつそよ家とそ

集

夢乃中を消すといふはうらな  
あつたれとて世の心はよそ  
下の心はあつてはし

は  
角もせは 動マ、モスしは

明解

林うせよきうしと仰る夢乃世は  
あつたれといふは

何  
唯れ夢ハ枕よきけり哉夢乃  
うらなよそきん ころ内約

美川

秘

中よれ由奇く世乃の意をとり我  
身も夢よきうらなとてあつたれ  
いこころはあつたれ

源中よ 夢乃

くしてよとせといふ

た  
きれむらよ命のあつたれ  
子とせをうらなとてあつたれ

美川

秘

不常はの心

しんせいのせいのしん

秘 世の上の事多くしる事

いとおめげふゆりや

秘 終身まで礼をこころいふる心づかひ者  
こころ事

さねくもくしてしんせいの事

事 世のまねをみよとて生うゆりゆり  
おこめわり

まじりゆりゆりしてしんせいの事

つれく事と

秘 いまはゆりゆりゆりゆり  
こころあつゆりゆりゆり

回 ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり

明くしの事

事 世の上の事多くしる事  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
明くし 秘 世のまねをみよとて

さうしん

<sup>秘</sup>心たゞいせんらう人をたゞ

くしんはらうけりれい海より

源氏夕霧ののり

こしはのいあ

<sup>筆</sup>はあし出家ノがき

そのあつたて

慧んがさよ

とらりふり

夕霧乃源を

清物のき

<sup>秘</sup>大の

おのき

うす

れいれ

是の

一日一夜

一日一夜



一日一夜持具足戒以此功德廻向願求

生極樂園 觀注

元

一日一夜齋戒をとおしりく女養象

一日一夜乃果報を文は性生礼讚云

中輩中行中根人一日齋戒必金蓮

出家の功徳もの事

秘

由しよりひうく行りてさせ給てたの

秘

此心もあく成多ひくかうひる事とせ

此いふにこもりさうゆくと

秘

されとも傍流はたつて出るよ

このまうれおこひは

美

是よして源のおね不足の下のんり

こころあやうくおんまをさる

秘

夕方の心

美

夕方の心はよしのうた事ありや

ありしころありよ

秘

野のりありし

此知りてしよらぬ事あり

何

しんがたふきうていしんがむむりも  
あまの原よ移んまらるあし

并

しんがたふきうていしんがむむりも  
あまの原よ移んまらるあし  
きりなまのいしんがむむりも  
てむあしんがむむりも  
むむりもあまの原よ移んまらるあし

是ハ夕音ノ本丁をりむむりも

源氏の世より出たむむりも

秘

是ハ本丁の口ありし

こ乃まらるのうきもあし

秘

夕音ノ

くちまよしも

秘

源ノ詞

あまの原よ移んまらるあし

并

あまの原よ移んまらるあし

あまの原よ移んまらるあし

秘

夕音ノ

ほやしくし

秘 文子し 弁

こくうららまぬらす

秘 ほくろふ事しちれをりり

まよひのやのやとけぬらぬ海を

秘 ありらるゝ細く 夕方のをく 美

流る何事と

源のまきくは成るの光るあり

いみしうかきしと事

秘 夕方のと暮上れ事成い 秘 美 弁

たりぬらてい

美 おね始末の事とみよきてあり

事とそれよははのふらひらひ

うかききしと事

なうてそれ日こく

暮送りのし

かきと見ゆ

何 りりせしこく

涼草乃じまきりつふよそて<sup>兼</sup>川の西の  
井 松川ありて水きくあふまはれ是  
をさもみれおきりうわ  
ちかくとむらむ野

葺知の地入る

いりてふいむうたれとくふれ  
燃りて

あふれあふる

穴はあゆむらうらうらうて

<sup>秘</sup>

源氏うらうて野に出入りて

みり <sup>井</sup>

美葵上の時も野に出入り

うらうていれ身

美源氏大上天をよそおはれ

ちの若れぬる若

葵上うせむい一時の事をさし

月れふりあうら

<sup>秘</sup>

葵上ハ八月廿九葺知

<sup>再</sup> 葵上代時ハ弁きともみみ所し

高方よりせむししくこれハ十ある其晩なり

<sup>何</sup> 高方ハ決皇十ある時舞送之式抄十

字ハ昔ノ葵上十あるハ世上下ある舞

<sup>舞</sup> 十字ハ世上下之葵上ノ舞ハ女日足日較成

方ハ祝あきと月のおつりより舞送の

舞しる也

<sup>秘</sup> 葵上ハ十代ハ世々十あるよやと舞

きあきあこれにがきりて右人の舞より

るー只げきりーとぞ

白くいとよあやよ

海方の海し

世ノの愛もかくまはるる年よあきと

美あくの愛も乃と字よと世の家

くくくり又あけいさあきいおまれの世

中あけしけきりてとあきと

ひくくく乃ぬやい

源氏清和家伝

此より此のちを

うらみの時世成るけいふりて

うらみのあけさへ

<sup>秘</sup>大おの孝なり

風物さくらん

<sup>秘</sup>美野ふりてふりぬは

大おの心

しうれ事

美野ふりてふりぬは

乃朝をさへ

又うらみの花の身は

<sup>秘</sup>美野の対り

何みへん

美野ふりてふりぬは

妙

<sup>秘</sup>美野の心

うらみのあけさへ

此より此のちりて

うなりの時世成りてはるかに

うなりのあけさへ

<sup>秘</sup>大おの孝なり

風物さへさへ

<sup>秘</sup>美野ふりてふり

大おの心

しりて事

美野ふりてふり

乃朝とさへ

又うなり乃朝の事なり

<sup>秘</sup>決意の時なり

何みさかともくしひき

よきなりてう後の世なり

あひまわり

<sup>秘</sup>何 会時、後の世をひき

<sup>秘</sup>時 務なり

<sup>秘</sup>より 会さくつたり

しらばをハむよぬらあし

不及は弄れ

<sup>ヲ</sup>いみこの林乃タれあしきふ介は

くくー明くれのま

<sup>秘</sup>有ー物ふ乃タをこいれんふふ

<sup>昇</sup>出活ひー事し

明くれ乃まをあしきふくうり河

半はくまふふ又ハ河よりあよつては

松いみこの林のタハいみこのハ宮ハ神の屋はなれぬまは

西へけれ名妙意しきううううい

ねり明くれのまハ名妙さそあは

い法の河くわくありまはた

くあーくうう養ありー

<sup>因</sup>いみこの河くわくーハ野方の朝く

明園は射してくうり

そあうりさく

<sup>秘</sup>あうり河くわく

いしまるくうう念佛



廿九日代かして定りし方地はるる也

しつてもおきても後の

元 是ハ源氏君れつ事

いあしつり此身のありき故

秘 源のゆ

後よりゆりかげをりし事

事 是よりつり時葉上の後をとりし故

一 事と云流あり可る目ん

秘 と海一の時葉上流成なりし故

事と云流ありこれと只これハ我者なり

毎成はつりつりし事と我者なり

つり同なりし事

美しとこれとこれつり事とこれと

つり美しとこれとこれつり事とこれと

いふ事とこれとこれつり事とこれと

秘 源氏君三のつり母君とこれつり

母君とこれつり母君とこれつり

事 松ヶ介

父上葉上存也

佛をたれまひしうましく

世の無常とてさうしきよのたる方後

しきよのほしうりあそし

きよあしあしきよあゆるし

佛のたれまひしうましく世とし

あしきよしあゆるしよまあゆるし

んまうしれど

<sup>秘</sup>くわしきよ

口をさしきよそまうり

口裏よりうし

ましきよしきよし

あしきよしきよしきよし

きよしきよしきよし

おちしきよしきよし

美原のきよしきよし

きよしきよしきよし

きよしきよしきよし

きよしきよしきよし

せあおげいある

ちどれにきありしきしやうとてはるね  
美波はちほあきよとてとるあ  
んやうしめいふりあめくすのあ

昔ちあめのあ母

美 葵よき 波仕のいふうと

こりはれ事なり

秘 八月あれを

あれあ身を行きいふうとてはる

秘

葵よきとあきしめいふと母しあき

あわあつるくうせはる人てのあはか

さうりせ

とられきんよりはるあ

井 末のあかりよのきりくはありへる

あ子のあ人あ将して

波仕のあ男あうあきと

波仕

あへのあきと今れあうしてあき

あ神はあれとあき

秘

いかに夢よ成りしなり并

夢いかに夢よ成りしなり并

別よりよみされし今故らするは

あし神も夢れ事之をえとんよ

世

あしをむし今もよめとち

秋乃世しはしをれ

秘

世間ノ事なるのありき事とあり

并

せし

私夢の上業よりしりて別後方

八月よりせりて夢の上れ時を也

乃其りしや月れ事の時なり

ありされもこれの夢の上り先致は

海の世ありれは情方なりとみ

まつる

海心の中しあり

秘

熱佛もれありしとありた

しるのしりてありしとあり

美 西心のまはるんぞいハ源のそめん  
まよ心のまはるんぞいハ源のそめん  
まよひていんこし

ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし

源ノ心を事ハゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし

ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし

ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし

ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし  
ゆくりのまひていんこし

はなをいぬはし一匹の綱はつる方にはおれ  
が将よこりくろく洞とてゆりちお  
若明とれらくまうひほてうろは  
みあくさあきこゆとよまてあは  
る人少将のいほのけしんそくは  
くはさ半のいほのそよかろりほ  
あはしゆり  
私い美あやうらるを但智我  
うとくみとのほひくまうりく  
う

あやうめて

合才九云 主君又母支服一年

あまをいぬはし一匹の綱はつる方にはおれ  
が将よこりくろく洞とてゆりちお  
若明とれらくまうひほてうろは  
みあくさあきこゆとよまてあは  
る人少将のいほのけしんそくは  
くはさ半のいほのそよかろりほ  
あはしゆり  
私い美あやうらるを但智我  
うとくみとのほひくまうりく  
う

花 祕 奇  
妻二等三月服服九月  
恒服之

妻服半 妾久時奇  
カキリアハウス量衣子カハ  
係リ池リクナトナシケル

并

松三ツカこまわの濃父の忍恒膝のらん

さくせあつたあふちしきそあふち

世平よさいひあわめさうたな人

兼

武ハ人よれ縁よし武ハひきかぬ

つとあふちして人ノ若しあふちあふち

是よりあふちあふちあふち

さくせあつた

是よりあふちあふちあふち

あふち

さくせあつた

是ハ人よれ縁よしあふちあふち

たつたあふちあふち

さくせあつた

又たあふちあふちあふち

思ひあふちあふちあふち

さくせあつた

是ハ人よれ縁よしあふちあふち

あふちあふちあふちあふち





今あしとつち

秋成さうひるのさうらうの今秋も  
うらうーさうさうさうさう

源氏ノ心

美けさうさうさうさうさうさう

せさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさう

さうひるさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさう

乃ちりあーや井あーさうさうさう

これ秋さうさうさうさうさう

乃ちりあーやさうさうさうさう

むさうさうさうさうさうさう

さあさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

正徳



女ういよらうたります

<sup>并</sup>源氏の心をいれらる方よあつれ

<sup>秘</sup>ほましくいよけさ海城をいれ

幻よいよらり

佛のまよふ人いよらり

女ういよらりいよらりいよらりいよらり

えらり

今いよらりいよらりいよらりいよらり

たあいよらりいよらりいよらりいよらり

又別<sup>コト</sup>半を

まれと人いよらり

かやまらりいよらりいよらりいよらりいよらり

いよらりいよらりいよらりいよらり

いよらりいよらり

照善

いよらりいよらり

源のまらりいよらりいよらりいよらり

いよらりいよらり

何  
まひつしゆりつりいさつてれりや  
世のうらなふらん 美り

弁  
世のうらなふらん 美り 秘

美原ノ秋カともやあつたれ

あふりつりけり

ららるりけり

美月日のうら

弁  
年のくれりつりつり

仲夏もあつりつりつり

あつり

秘  
明石中あつ

弁  
羅陵王 古来有舞 中曲舞次先小乱声

次囀三度 略時 一度次喚序 次音取 次荒序

次入破次安麻中急 け時舞入 又二度用

應安三年二月八日右近将監豊原美秋

伴自筆譜永正元端午於清前写し今

松写しせ

Blank page with faint bleed-through from the reverse side.

Blank page with faint bleed-through from the reverse side.



